

蘇南中だより



自己を生かす生徒
助け合い励まし合う
知恵を働かす
たくましくやりぬく
令和8年1月7日発行

「共に学べる素晴らしい」

多文化共生指導教諭 伊左治 ちなみ

2026年の新しい年の始まりです。どんな1年となるのか、何をしようか、わくわくします。学年の締めくくりに行われる「成長を語る会」は、まさに楽しみの一つです。

蘇南中学校に在籍する外国籍生徒は、全校生徒の2割になります。(可児市内の学校に在籍している外国籍児童生徒は、全児童生徒数の12%) 第2言語として日本語を学びながら、仲間と共に「目指す自分」作りに励み、彼らもまた自分の「成長」について、学級や学年の仲間に日本語で語ります。



昨年、国際教室（日本語指導教室）に通室する多くの生徒が、発表の終わりに「これからの自分」について、「先生や仲間が話していることを分かりたい。だから、もっと日本語を勉強する。」と語り、日本の地で周りと繋がって自分の将来と向き合う姿がありました。発表を聞いた学級の仲間の意見には、「みんな家族や友達が大切だと言っていて心があたたかくなりました。みんな言葉のセンスがよくてすごいと思いました。みんなの学校外の様子も見て、自分と同じところもある！と親近感が湧きました。もっと仲良くなりたいなと思いました。仲間のことを知るのは必要だし、外国の文化を知ることができて、心の距離はせまく、知識の幅は広くなりました。」と、外国籍生徒は自分の思いを「尊重」し仲間が共感してくれたことを自信にして、新しい関係に踏み出していました。蘇南中学校の素晴らしい取り組みです。

多文化共生は、知ることから始まる

うまく話せないけれど、

勇気を出して伝える努力をしよう。何かを伝えたい相手の心を受け止めよう。お互いを尊重しながら、切磋琢磨できる「成長を語る会」の季節がやってきます。